参考資料（木下健蔵氏作成・提供）

1，赤穂高校平和ゼミナール

赤穂高校平和ゼミナールの活動

1989（平成元）年、赤穂高校3年生の春日（現北原）いづみさんから「今年の文化祭に登戸のことを発表したいから手伝ってください」というのが登戸研究所の調査をするきっかけでした。

連日、放課後を使い中沢・東伊那の聞き取り調査を行いましたが、登戸研究所の名前は知っていても、その内容についての詳しいことは知りませんでした。

そのうち、当時の将校であった伴繁雄さんと知り合いになり、多くの時間、聞き取り調査をすることができました。

文化祭で展示内容を説明する春日さん

伴繁雄氏から聞き取りをする春日さん

平和ゼミナールの活動

最初の平和ゼミナールのメンバーと記念撮影（東伊那の自宅にて）

平和ゼミナールの活動
(法政二高・川崎市民との交流会)

　その後、同様の研究をしていた川崎の法政二高平和研究会や登戸研究所の調査をしていた川崎市民と合同の交流会を、赤穂高校と川崎市で持つこともができました。 この合同調査によって、登戸研究所の研究が進展し、当時の関係者の話などから全貌が徐々に明らかになってきました。

赤穂高校での交流会

天野良治氏からの聞き取り調査
(赤穂高校)

川崎での交流会

登戸研究所の跡地見学(明治大学生田校舎)

登戸研究所本館

第3科建物

第2科建物(現:登戸資料館)

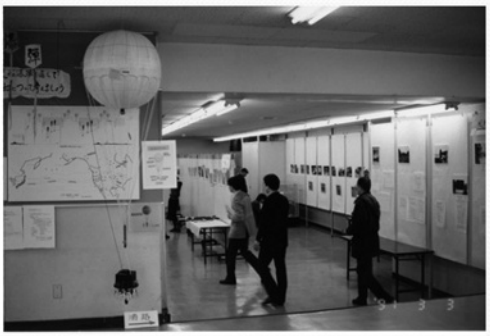
弥心神社

平和ゼミナールの活動
(川崎市での登戸研究所の展示)

合同研究の結果は、川崎市で展示され、多くの市民から注目されました。

赤穂高校平和ゼミナールの研究成果も展示されました。

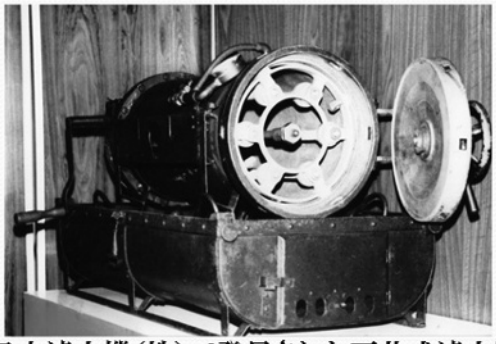
このことが、後に「高校生が追う陸軍登戸研究所」という本になりました。



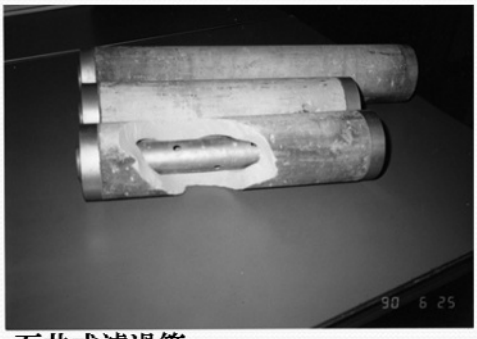
平和ゼミナールの活動
(石井式濾過管の発見)

平和ゼミナールの調査で注目されたのが、伴氏宅で発見された「濾過管」です。この濾過管には「軍事機密」という刻印があり、731部隊長の石井四郎が発明された物で、戦後初めての発見でした。

東伊那の伴氏宅で発見された濾過管



日本濾水機(株)で発見された石井式濾水器



石井式濾過管

平和ゼミナールの活動
（実験器具等の発見）

「駒ヶ根市誌」には、登戸研究所のことは数行しか記述されていませんでした。

そのため、疎開していた中沢小学校の昭和20年の「学校日誌」を調査しました。このなかに、登戸の関係者が来校していた事実や実験器具を学校に寄贈した事実などの記述があり、実際に登戸の関係者が来ていた事実が明らかになりました。

また、当時の実験器具らしいものが倉庫にあったので、当時の将校であった杉山圭一氏に確認したところ、実際に登戸研究所で使用していた物であることが確認されました。

中澤国民学校昭和20年の「学校日誌」

実験器具を確認する杉山圭一氏

2. 陸軍登戸研究所の歴史

- 1927(昭和2)年　東京新宿戸山ヶ原に日本で最初の秘密機関「秘密戦資材研究所」が創設される
- 1939(昭和14)年　川崎の登戸に移転、「登戸出張所」となる　このときから通称「登戸研究所」と呼ばれる
- 1941(昭和16)年　陸軍技術本部の設立により、「陸軍技術本部第9研究所」となる
- 1942(昭和17)年　兵器行政本部の設立により「兵器行政本部第9陸軍技術研究所」となる
- 1945(昭和20)年　空襲の激化により、本部・第2科・第4科が上伊那地方に疎開する。第1科は北安曇地方・兵庫県小川村、第3科は福井県に疎開

3. 陸軍登戸研究所の研究内容

総務科‥‥研究・運営に関する総務全般

第１科‥‥物理関係全般

・風船爆弾、殺人光線、宣伝用自動車、スパイ用無線通信機、宣伝用自動車など

第２科‥‥化学関係全般

・秘密インキ、秘密カメラ、生物化学兵器（毒薬・細菌）、青酸ニトリール、特殊爆弾、時限信管など

第３科‥‥経済謀略資材関係全般

・偽造紙幣、偽造書類、偽造パスポート、各種証明書の偽造

第４科‥‥機材製造関係全般

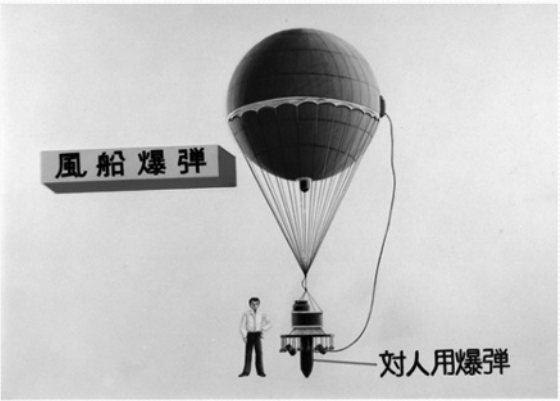
・第1科・第2科で研究開発された機材の製造、陸軍中野学校の指導

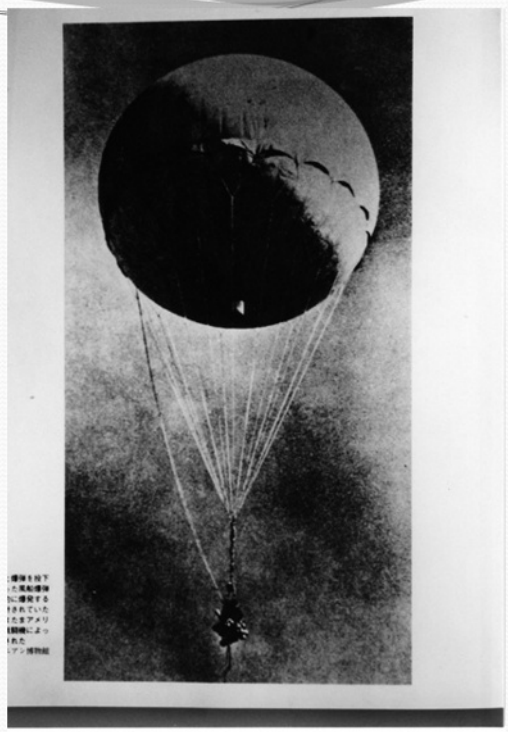
第1科の研究内容

風船爆弾（ふ号）

1944（昭和19）年11月から翌年の3月までの間に、約15，000個を放球予定（実際は9，300個）

この製造のために、全国の高等女学校の生徒が動員された





第2科の研究内容

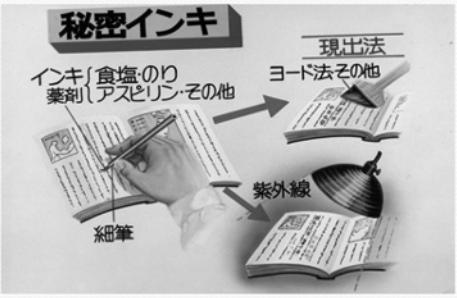
登戸研究所の研究で、明らかにされなかったのが、第2科の研究である

毒物や細菌などの実験のため、中国で人体実験を行っている

戦後、これらの研究成果をアメリカは戦犯を免責してまで入手したかったのである

登戸研究所の所員の何人かはアメリカに渡り、軍で働いていた

なかでも枯葉剤の研究は、その後のベトナム戦争でアメリカが使用したものの基礎になったものと言われている

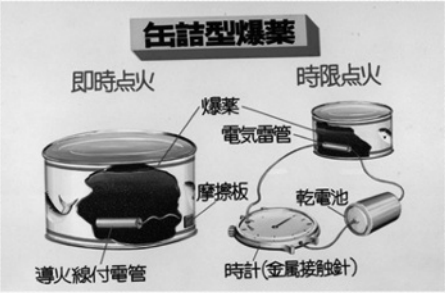


第2科の研究内容

第2科の研究は、疎開してからはほとんどの研究ができなかったが、缶詰爆弾については、高等科の生徒を動員して、軍需工場があった中沢青年学校や中割協議所などで製造されていた

爆破実験の様子を天竜川穴山沖で生徒たちに見学させている

（中澤国民学校「学校日誌」の記述）



第2科の研究内容

青酸ニトリール

この青酸系の毒薬は、遅効性の毒薬で数分してから効果が現れる。

青酸がすぐに効果が現れるのとは対照的である。この薬品を南京において中国人捕虜名に人体実験をしたことがわかっている。伴繁雄氏もこの事実を著書の中で認めている。

戦後、帝銀事件で使用された青酸がこの青酸ニトリールではないかと疑いがもたれた。

警視庁の刑事がその調査のため上伊那地方に来て、関係者に尋問している。

青酸ニトリール
正式名称は「アセトン・シアン・ヒドリン」

第2科の研究内容

毒　物

台湾へ毒蛇の毒を採取しに行った所員　土方博技術少佐（右）杉山圭一技術大尉（左）

図2-5　イヌサフラン（『毒のはなし』東京図書より）

図2-6　アマガサヘビ（『世界大百科事典』平凡社より）

第2科で研究していた毒物

第3科の研究内容

偽造紙幣

第3科の研究で有名なのが偽造紙幣の研究である

中国の通貨である「法幣」を偽造して、蒋介石の国民政府にインフレーションを起こし、中国国内を経済不安にさせる目的で実施された

この偽造紙幣は中野学校出身者が運び、中国における特務機関である「松機関」を通じて市場に流通させた

中国の偽造法幣

第3科（杉工作）の関連図

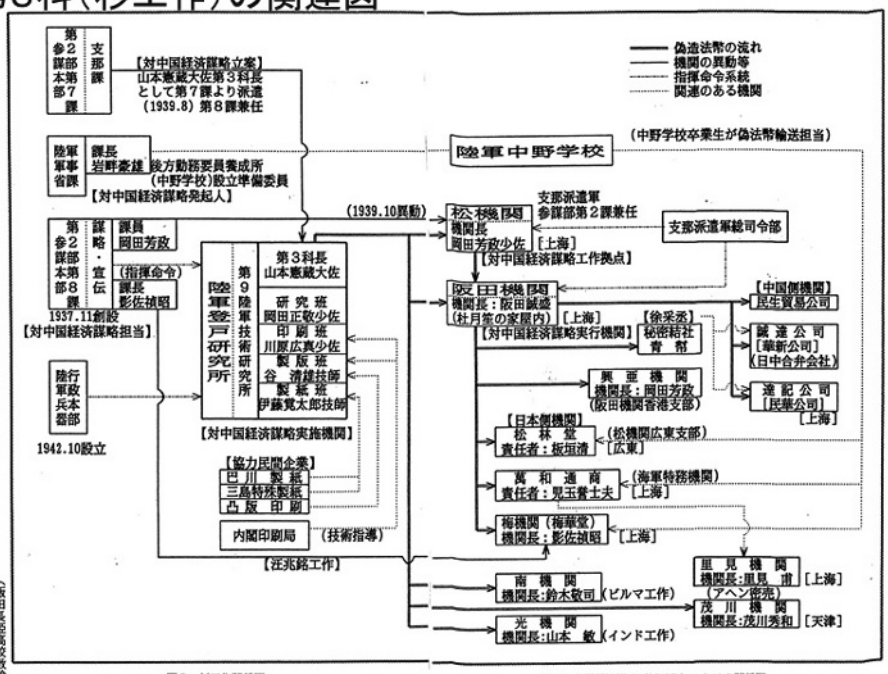


図7　杉工作関係図　　図7　中国経済謀略（杉工作）における関係図

4. 陸軍登戸研究所の疎開

兵器行政本部作成の資料(1945年8月21日付)

疎開先	本　　部	長野県上伊那郡宮田村
	北安分室	長野県北安曇郡松川村
	中澤分室	長野県上伊那郡中澤村
	小川分室	兵庫県氷上郡小川村
	登戸分室	川崎市生田
内　容	本　　部	企画・庶務・人事・経理・医務・福利
	北安分室	強力超短波の基礎
	中澤分室	挺進部隊爆破焼夷及び行動資材、宣伝資材、
	小川分室	憲兵資材並に簡易通信器材の研究及び製造
	登戸分室	資材の収集、他の機関との連絡、疎開後の残務整理

本土決戦に備え疎開した各研究機関

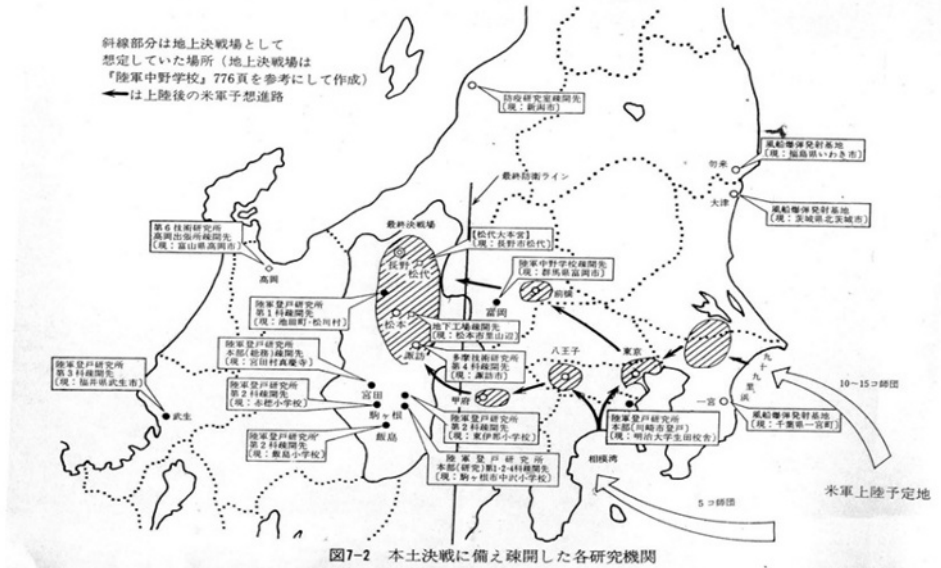


図7-2　本土決戦に備え疎開した各研究機関

長野県の疎開先（上伊那地方）

本　部	真 慶 寺
第2科・第4科	中沢小学校
第2科	東伊那小学校
第2科	赤穂小学校
第2科	飯島小学校
	飯島小学校本郷分校

※名称は現在のもの

中澤国民学校（第2科・第4科疎開先）

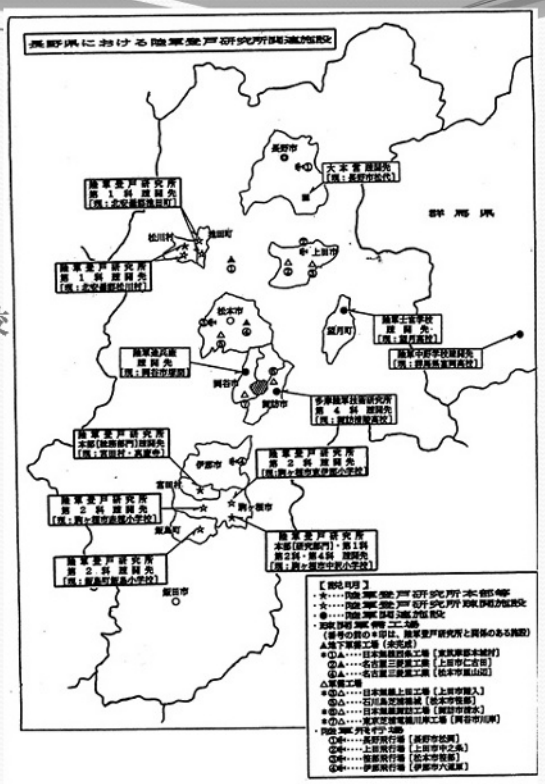


図８　長野県における陸軍登戸研究所の疎開先　『消された秘密戦研究所』312頁

工場となっていた中沢「中割協議所」

缶詰爆弾の製造が行われていた中沢「香花社」

工場となっていた中沢「上割協議所」

調査で発見された登戸研究所の書籍

長野県の疎開先（上伊那地方）

本　部　　真　慶　寺

長野県の疎開先（北安曇地方）

第1科　松川小学校[松川村]
第1科　会染小学校[池田町]
※名称は現在のもの

松川村に建設されていたパラボラアンテナ
（電波兵器）の礎石

駒ケ根訪問の市陸軍登戸研究所員

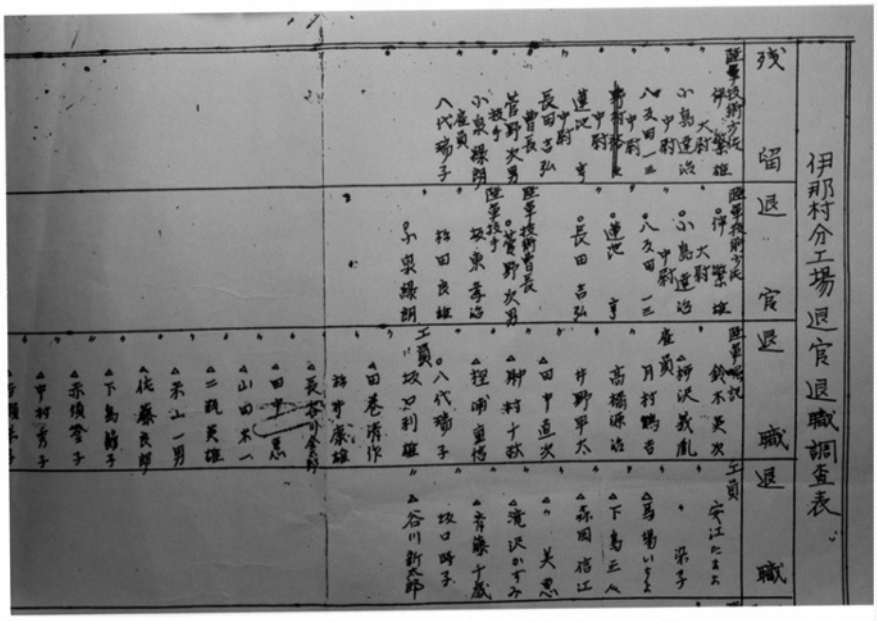
「殺人光線」の研究 証言

松川村に建設パラボラアンテナ

米機「電波で撃墜」狙う

『信濃毎日新聞』1998年10月13日付記事

伊那村分工場退官退職調査票



5. 終　戦

「陸軍省軍事課特殊研究処理要領」と標題が就いた文書がある。
この文書は、敗戦と同時に関係機関に発した通達である。

陸軍省軍事課特殊研究処理要領

昭和20年8月15日
軍 事 課

一、方　針
敵ニ証拠ヲ得ラルル事ヲ不利トスル特殊研究ハ、全テ証拠ヲ隠滅スル如ク至急ニ処置ス

一、実施要領

1. **ふ号及登戸関係ハ兵本草刈中佐要旨ヲ伝達、直ニ処置ス　(15日8時30分)**
2. **関東軍、731部隊及100部隊ノ件、関東軍藤井参謀ニ電話ニテ連絡処置ス　(本川参謀不在)**
3. **糧秣本廠1号ハ衣糧課主任者(渡邉大尉)ニ連絡処置セシム　(15日9時30分)**

：

以下略

中澤国民学校　GHQの接収　1945(昭和20)年10月
(左)杉山圭一大尉、(中央)山田桜大佐
(前列左から4人目)夏目五十男少佐、(前列右から3人目)北澤隆次技師

中沢　林氏宅(丸山班疎開場所)をGHQが接収　家人と記念撮影

６．戦　後

戦犯の免責

登戸研究所の所員で、戦後、戦犯になった者は一人もいない。
研究成果と引き替えにアメリカが免責を与えたためである。この免責は731部隊と登戸研究所のみに与えられものである。

帝銀事件

1948(昭和23)年1月26日、帝国銀行椎名町支店で行員ら12人が青酸化合物によって毒殺されるという事件が起きた。警視庁は青酸化合物が登戸研究所で開発された青酸ニトリールではないかと疑い、上伊那地方に調査に訪れている。伴繁雄氏も伊那裁判所において、証言している。

帝銀事件の犯人とされた平沢貞道